

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790401434		
法人名	株式会社 ホライズン		
事業所名	グループホーム 永崎		
所在地	福島県いわき市永崎字館39		
自己評価作成日	令和6年8月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク		
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境と地域住民との交流のもとで、入浴、排泄、食事等の介護、その他、日常生活において出来る限り身の回りの事が出来ることを続けられるように機能訓練や歩行訓練、ラジオ体操、パワーアップ体操、レクリエーション、食前体操、あいうべ体操を毎日実施しています。毎月利用者様が楽しめるように季節にあったイベントを取り組んでいます。医療との連携を大切にし利用者様の急変時には、主治医の意見やアドバイスなどの指示を仰ぎ、ご家族の方にも情報が分かるように体制を整えています。利用者様が安心して生活出来るように支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念を活かすべく、職員に作成した意味や目的を繰り返し伝えることで、利用者が安全・安心に生活できるよう、ケアの質の向上を目指した取り組みをしている。地域密着型サービスの意味を理解し、感染症の状況を見ながら地域の学校と交流したり、事業所の持っている力を地域のために役立てようとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解しながら利用者様の傾聴を聞き、家族と協力しながら利用者様の思いが実現できるように支援します。また、利用者様が有する能力に応じた自立した日常生活を安心して生活できるように努めています。	理念の意味を職員に繰り返し伝え続け、実践していくことで、より理念への理解度を深め確認していけるようにしている。利用者が穏やかに、安心した生活のために、気付いた事は、職員間で共有し対応している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	開設してから数ヶ月がたちましたが近隣の運動会を見にいったり馴染みのあるスーパーでお買い物をしてみたりと少しずつでは、ありますが交流を増やせるように努力しています。	回覧板を回して貰っている。コロナ禍ということもあり訪問等は遠慮して貰っており、今後ボランティアの来訪等の話があった時にはお願いしたいと考えている。コロナの感染状況に注意しながら、地域の行事に参加したいと計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	居宅事業所や市町村の方と気軽にお話ができるように貢献しています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	感染予防もあり書面開催とした運営推進会議を取り組みホーム内の状況、活動を報告しています。	コロナ禍の為、書面での会議になっている。意見や要望があれば前向きに検討し、事業所の利用者ケアに活かして行きたいとしている。今後は、災害時に地域の方たちと連携が取れるよう、災害計画などの情報を共有したいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状報告や問題点がある場合には、市町村担当に報告、相談、解決に取り組んでいます。	居室に空きが出た時や書類提出等で分からない点など、市の担当者に教えて貰ったり相談し、入居希望者や災害等の情報を受け取っている。市の担当者とは、事業所や利用者の情報を伝え、利用者にあったサービスを提供できるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が研修に参加できるように実施。ミーティングや会議などで話し合いを行い身体拘束につながらないように取り組んでいます。	身体拘束防止の事業所の指針を作成してある。言葉の拘束について、命令口調等が見受けられた時には、職員への再指導や指針の読み返し、身体拘束防止対策委員会への参加を促している。外部研修内容を職員間で共有している。	
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が研修に参加できるように実施。ミーティングや会議などで話し合いを行い高齢者虐待防止を努めています。	高齢者虐待防止関連法の研修会に参加し、虐待防止の会議で話し合った内容に気を付けながらケアに取り組んでいる。管理者は職員の疲労やストレスが、利用者へのケアに影響しないよう、職員が相談できる環境づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要がある場合は、関係者と話し合い進め、活動出来るようにサポートしていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容について十分な説明を行い、理解納得を図れるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者のご家族の意見や要望があれば出来る限り傾聴しご家族の方も安心していただけるように職員も努めています。	玄関先に意見箱の設置し、意見や要望を伝えて貰い、利用者・家族には、出来る限り対応をして満足して貰えるようにしている。職員全員が、意見や要望を書いた紙を事務所のボードに貼り、常に見られるようにして情報がいきわたる様にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。	毎月定期的にミーティングを行い意見や提案を聞く機会を設けたり、自主的に事業所オリジナルコルクボードに意見を述べられるようにして努めています。	行事やレクリエーション内容の提案や意見を、起案書にして提出してもらい、利用者が毎日楽しんで過ごせるようにしている。職員から資格取得や研修会への参加の要望があったときは、勤務変更等をして、参加出来るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の勤務状況を把握し、処遇への反映、向上、心を持って協力的に働けるよう職場環境、条件の整備に努めています。		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等は、できるかぎり参加させてあげたいです。また、個々の力量に応じた研修で学んでいければと考えています。	職員の質の確保・向上に向けた育成が不可欠であることを理解し、外部研修、社内研修をして質の確保に努めている。研修報告書を書いてもらい、ミーティングで研修報告をして研修内容を共有している。利用者の対応に研修成果が表れている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流している法人との研修や情報を交換充実させサービスの質を向上していけるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人との面談をできる機会をつくり、できるだけ本人の要望に応じ安心して生活ができるようにしていきたいです。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、思いなどを聞き入れながらホームの説明も行ったうえでサービスを導入していきたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの生活が本人にとって良いのか家族の方やケアマネなどともお話しをする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支え合える関係を築いていければと思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り支えていける関係を築けていきたいです。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域でのお買い物や馴染みのある場所までドライブしたり、長い間かかりつけだった医療機関など入所しても変わらずこれまでの関係を壊さない様に心がけています。	桜が見たいと、利用者から話があり、桜並木がある川沿いに出かけた事がある。面会は、介護度が高い方が多い為、ゆっくり過ごせるよう、居室で行っている。実家への一時帰宅や墓参りは、家族の協力で、外出・外泊で対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を理解し、関わり合いを支え合えるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、依頼があれば出来る限り対応し相談にも応じたいです。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。	利用者様の傾聴を聞き入れ、ミーティングなどでも職員と話し合いをしていく。出来る限り本人の意向にそえるように努めていきたいです。	利用者と談笑している時や、居室に案内した時に思いを聞くことが多く、帰宅願望や不安感など、その人に合った話し方で応えている。把握した思いや意向は、職員間で共有し、思いや意向に沿えるように話し合いをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に聞き取りをして、出来る限り把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの暮らし方の現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネと職員とが情報を共有して職員全員で話し合いを行い、また家族とも話し合いを行い、より良いケアをサポート出来るように個別の具体的な計画でわかりやすい介護計画を作成していく。	介護計画変更は、状況や状態が変わった時に、管理者・介護職員・介護支援専門員・協力医療機関等が関わっている。現場で実践的な対応ができるよう、職員の意見を活かした話し合いをし、臨機応変なケアに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録で情報を共有し、実践や見直しに活かしていきます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や家族の状況に応じた支援を行っていきけるように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を増やし楽しみが増えるように努め、安心して生活が出来るように努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の意見を大切に、適切な医療が受けられるように支援していきます。	入居前からのかかりつけ医、事業所の協力医療機関のどちらでも、本人・家族に選んでもらっている。協力医療機関とは、緊急時でも連携をとってもらえるようになっている。受診結果は、家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックを定期的に行い、いつもと表情や変化があれば医療機関に相談し適切な診察を受診を受けられるよう支援していきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と情報を交換したり相談し合い支援していきます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所でできることを事前に医療機関に伝え話し合い、利用者様の状態が変わったときにも混乱がないようにチームで支援するよう取り組んでいます。	重度化や終末期には、医療機関から本人・家族への説明や延命治療等、終末期に向けての話し合いの場やケアに関わっている。重度化や終末期に対応するために、医療機関から対処方法を聞いたり、研修をすることで不安を少なくしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応は、職員内で話し合い、全員が統一して対応できるようにしていきたいです。医療機関にも相談をして応急対応を教えて頂き実践力を高めたいです。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害計画、事業計画、避難計画などがあり職員全員に避難方法手順を身につけられるよう訓練を行っていきたくです。万が一に備えて地域との協力体制も築いて行きたいです。	訓練時に、消防に派遣を要請したり、委託業者や地域の方に参加してもらっている。訓練後消防署から、避難を早める方法や、消火器の使用方のアドバイスを受け、日常的に、状況に合わせた対応が出来るよう、避難策の検討を行っている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いにも気を付けながら利用者様の声掛けにも対応し、誇りやプライバシーを損ねないよう出来る限り受け入れ配慮しています。	職員には、利用者の尊重やプライバシーを守ることを確認した誓約書を書いている。言葉の拘束については、命令口調、上から目線、威圧的な態度や言葉が無いよう、研修や会議の中で繰り返し伝えている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に添えるように働きかけている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは、決まっていますが利用者様のペースを大切に安心して生活できるようにしています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合わせて清潔感のある身だしなみを支援しています。また、介助が必要な利用者様も衣類等に汚れがある場合は、声掛けにて交換し、清潔に対応しています。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。	料理は、職員が調理するため、利用者様の好みを取り入れ出来る限り季節を感じられるような料理を考えています。食欲を高められるように食材や彩を考えて盛り付けをしています。	利用者の要望を聞き、季節に合った食事できるように心掛けている。一人ひとりに合わせ常食や刻み食、ペースト食等にし、その人の速さで食事ができるようにしている。行事の時は、季節に合わせた炊き込みご飯、手作りのケーキ等を食べてもらっている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスや食事量を考え、利用者様が食べたいと思う料理を考えています。また、利用者様の水分量に関しても1日どのくらい水分を取っているのかも把握しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事する前のうがい、食事後の口腔ケアは、きちんと行っています。口腔ケアが困難な利用者様に対しては、職員で話し合いをして、口腔ケアが出来る限りできるように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様が出来る限りトイレで排泄が出来るように定期的なトイレの声掛けをしてトイレ誘導しています。	家族の金銭的な負担を減らしたり、失禁を増やさない為にも、その人に合った定期的な声掛けやトイレ誘導することで、オムツからリハビリパンツに代わった例がある。失敗したときは、尊厳に配慮しながら何気ない対応を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動への働きかけ、また飲食物を工夫してみてもそれでも困難な場合は、主治医に相談します。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様1名ずつゆっくりと入浴ができるように対応しています。入浴剤を入れることにより、利用者様の気持ちがリフレッシュされ気分よく上がられています。	一人ひとりのこれまでの生活習慣を尊重した入浴時間に行っている。嫌がる人には、嫌いな原因を探し、職員で話し合い、どうすれば入浴をして貰えるか何度も挑戦し、試行錯誤をしながら、入浴してもらえる術を見つけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムに応じたり、その日の体調、気温など安心して休まれるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬情報を理解して薬に変更があれば、症状の変化を観察し状況によっては、主治医に相談します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割や楽しみ事を引き出し、気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車でのドライブ、近隣内の散歩、お買い物など出来る限り機会を設けています。またご家族の協力でも外出することもあります。	行事で出かけるときは、タオルやマスク、必要に応じて着替えや飲食物等を準備し、季節に合った紅葉狩りなどに出かけ、喜んでもらえるようにしている。福祉車両が2台ある為、車椅子の方も外出する事が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、ご家族の方をお願いしています。本人が希望する物がある場合は、事業所で立替をして職員と一緒に買い物へ行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の方から電話があれば利用者様とお話をしています。また手紙が届いたときは、直接利用者様にお渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れて、利用者様と工作をした作品は、掲示し空間作りに配慮しています。	本人が過ごしたい場所で、ゆっくりと過ごしている。移動の妨げにならないよう、動線に物は置かず、ルートを確認して安全に通行出来るようにしている。感染症対策で、職員の出勤時の手洗いうがい、手指消毒を徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地の良い共同居場所を工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	馴染みの物を持ってきてもらう事で、その人らしく安心して生活してもらえるように工夫しています。	身体状況に合わせて、ベッドなど家具の配置をその人に合わせている。居室を間違わないよう、表札を貼り、自分の部屋を分かりやすくしている。清掃や衣替えは、出来る方には、見守りをしながら対応をしたり、職員が行う時もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱しないように、分かりやすく名称をつけて混乱せず安心して過ごせるように工夫しています。		